

当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	単位型投信／海外／その他資産（バンクローン）	
信託期間	2014年8月15日から2015年8月14日まで。	
運用方針	投資信託証券を主要投資対象として、投資信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要運用対象	当ファンド	投資信託証券。
	ウエスタン・アセット・バンクローン（オフショア）ファンド－JPYヘッジド・クラス	米ドル建ての企業向けバンクローン（貸付債権）。
	日本短期公社債マザーファンド	わが国の短期公社債。
組入制限	当ファンド	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
	日本短期公社債マザーファンド	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	運用による収益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。	

# バンクローン・ファンド・ネオ （円ヘッジ型）2014－08

## 満期償還 運用報告書（全体版）

（償還日 2015年8月14日）

### 受益者のみなさまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております『バンクローン・ファンド・ネオ（円ヘッジ型）2014－08』は、去る2015年8月14日をもって満期償還となりました。ここに設定以来の運用経過をお知らせいたします。

ご愛顧誠にありがとうございました。

#### <お知らせ>

運用報告書は、「投資信託及び投資法人に関する法律」の改正により2014年12月1日以降に作成期日が到来するものから交付運用報告書と運用報告書（全体版）に二段階化されています。この運用報告書は運用報告書（全体版）です。

## 新光投信株式会社

東京都中央区日本橋1丁目17番10号

<http://www.shinkotoushin.co.jp/>

当運用報告書の内容についてのお問い合わせ先  
ヘルプデスク 0120-104-694（フリーダイヤル）  
受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。

## ○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			受益者 受 益 回 り	S&P/LSTAレバレッジド・ ローン・インデックス		投資信託 証 組 入 比 率	債 券 組 入 比 率	元 残 存 本 率
	期 中 騰 落 額	期 中 騰 落 率	期 中 騰 落 率		期 中 騰 落 率	期 中 騰 落 率			
(設 定 日) 2014年8月15日	円 10,000	円 —	% —	% —	2,476.01	% —	% —	% —	% 100.0
償還日（2015年8月14日）	9,756.74	△243.26	△2.4	△2.4	2,518.33	1.7	—	—	77.2

※債券組入比率は、親投資信託の比率を当ファンドベースに換算した実質比率です。

※S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックスは、当ファンドのベンチマークではありません。

※S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックスは、米ドル建てのバンクローンを対象として、S&Pが定める一定の条件を満たしている銘柄によって構成される指数です。

※上記の指数は、S&Pの知的財産です。S&Pは、同指数の算出、公表、利用などに関する一切の権利を有しております。S&Pは、当ファンドの運用成績などに関する一切の責任を負いません。

※ベンチマークとは、ファンドの運用成果の評価基準（目標基準）となる指数をいい、約款または投資信託説明書（目論見書）において、その旨の記載があるものを指します。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準価額		S&P/LSTAレバレッジド・ ローン・インデックス		投資信託 証 組 入 比 率	債 券 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2014年8月15日	円 10,000	% —	2,476.01	% —	% —	% —
8月末	10,028	0.3	2,485.14	0.4	98.1	0.1
9月末	9,957	△0.4	2,472.34	△0.1	98.1	0.1
10月末	9,958	△0.4	2,474.41	△0.1	98.7	0.1
11月末	9,998	△0.0	2,489.22	0.5	98.7	0.1
12月末	9,819	△1.8	2,457.16	△0.8	97.9	0.1
2015年1月末	9,792	△2.1	2,466.37	△0.4	98.2	0.1
2月末	9,890	△1.1	2,500.66	1.0	98.4	0.1
3月末	9,902	△1.0	2,509.76	1.4	97.8	0.1
4月末	9,980	△0.2	2,534.37	2.4	98.6	0.1
5月末	9,961	△0.4	2,538.09	2.5	98.4	0.1
6月末	9,836	△1.6	2,528.91	2.1	98.1	0.1
7月末	9,769	△2.3	2,528.66	2.1	98.4	0.1
(償 還 日) 2015年8月14日	9,756.74	△2.4	2,518.33	1.7	—	—

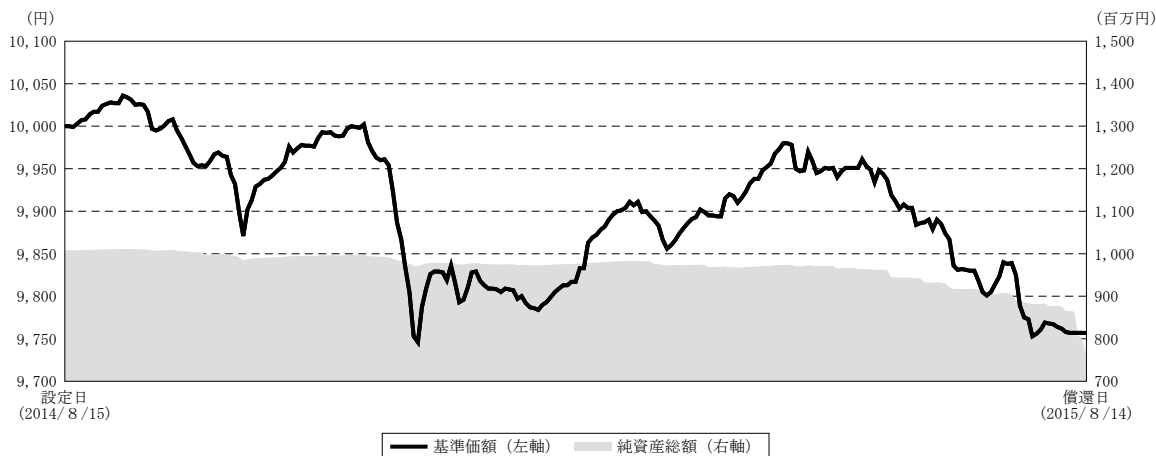
※騰落率は期首比。

※債券組入比率は、親投資信託の比率を当ファンドベースに換算した実質比率です。

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

（2014年8月15日～2015年8月14日）



設定日 : 10,000円  
 期末 (償還日) : 9,756円74銭  
 騰落率 :  $\Delta 2.4\%$

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。

### ○基準価額の主な変動要因

主として米ドル建ての企業向けバンクローンに実質的な投資を行い、また実質的に対円を為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図りました。

#### (上昇要因)

米国の主要景気指標や企業業績が回復傾向を示し、企業のデフォルト（債務不履行）率も歴史的な低水準で推移しており、バンクローン市場を取り巻くファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）が良好であったことは主な上昇要因として挙げられます。また、2015年に入って以降、バンクローンの新規発行が限定的となるなかでCLO（ローン担保証券）からの需要が堅調に推移したことなどにより、バンクローン市場の需給が引き締まったことも上昇要因として挙げられます。

#### (下落要因)

2014年末から2015年にかけて大幅に原油価格が下落したのを契機に、資源・エネルギーセクターに属する発行体に対する信用リスクが高まったことが主な下落要因として挙げられます。この他、ウクライナや中東情勢の混乱などの地政学的リスク、エボラ出血熱の感染拡大の懸念、ギリシャの債務問題に関する不安定な交渉経過、中国経済の減速に端を発した中国市場の混乱など、相次いで発生した外的要因も下落要因として影響を及ぼしたと見られます。

## 投資環境

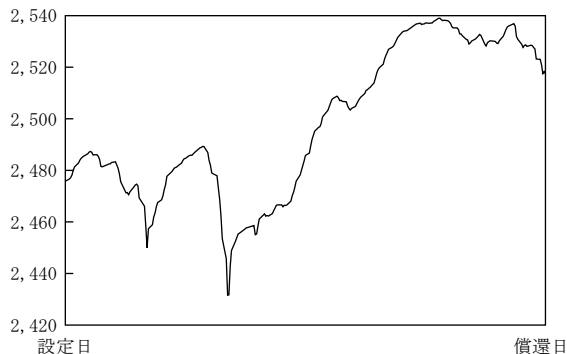
（2014年8月15日～2015年8月14日）

## ○バンクローン市場

バンクローン市場は、2014年10月中旬まで軟調に推移しました。この背景には、既に8月までには、ウクライナや中東地域での地政学的リスクが高まっていたことに加え、9月中旬からはエボラ出血熱の感染拡大を懸念する投資家のリスク回避的な動きが加わったことやIMF（国際通貨基金）が世界経済見通しを下方修正したことなどが挙げられます。10月中旬には、FOMC（米国連邦公開市場委員会）声明文の中で米国の労働市場に対する判断が上方修正されたことなどをきっかけに一時持ち直す傾向を示しましたが、12月上旬より原油価格の下落をきっかけに原油・エネルギーセクターへのリスクが高まり、バンクローン市場は大きく下落しました。

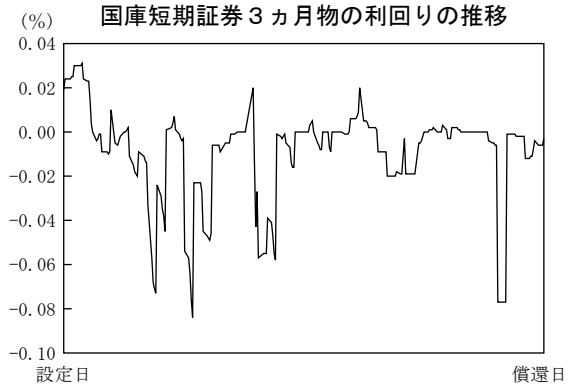
2014年末から2015年に入り、バンクローン市場は需給面で引き締まりが寄与し、5月頃まで回復トレンドが続きまし。バンクローンの供給が限られるなか、CLOからの需要が引き続き堅調に推移したことや米国の投資信託からの流出入が増加に転じるなど、需給が改善したと考えられます。ただし、6月に入ると、額面を上回る価格帯のバンクローンに対する買い控え傾向や、ギリシャ支援交渉の不安定な動きに影響された欧州債券市場のボラティリティの高まり、さらに中国経済の減速に端を発した中国市場の混乱なども加わってバンクローン市場の伸びが停滞しました。CLOからの需要は引き続き安定的であったこともあり7月中旬には市場はやや盛り返しましたが、投資案件が少なかったこともあり8月には再び下落基調を辿っています。

S&amp;P LSTAレバレッジド・ローン・インデックスの推移



## ○国内短期金融市場

国内短期金融市場において国庫短期証券の利回りは、日本銀行が金融緩和政策を継続するなか、2014年10月末には大規模かつ追加的な量的質的緩和政策を発表し、利回りが大幅に低下する局面もありました。2015年に入ってから国庫短期証券の利回りは、7月中旬に日本銀行が3兆円の国庫短期証券の買入れを通告したことで一時的に大きく低下した数日を除けば、概ね小幅な変動域内での推移にとどまりました。



ポートフォリオについて

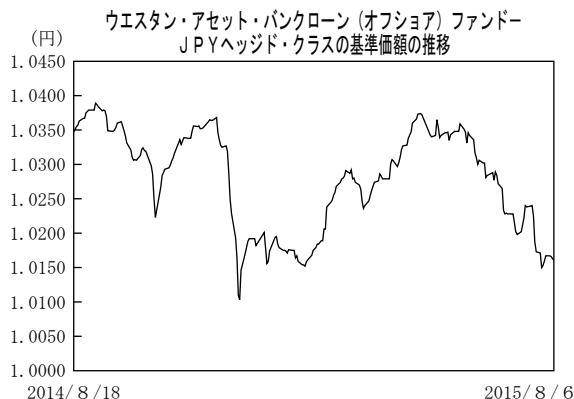
(2014年8月15日～2015年8月14日)

○当ファンドの運用状況

運用方針にしたがい、ウエスタン・アセット・バンクローン（オフショア）ファンドー J P Y ヘッジド・クラス（以下「WAローン・ファンド」といいます。）の高位組み入れを継続するとともに、日本短期公社債マザーファンドを組み入れました。また、原則として実質的に対円で為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りました。ただし、償還に向けてはWAローン・ファンドおよび日本短期公社債マザーファンドの全部売却を行いました。

○ウエスタン・アセット・バンクローン（オフショア）ファンドの運用状況

CCC格などの低価格付けのローン組入比率を相対的に高めとする運用を行いました。また事業分野別では、資源・エネルギー分野への投資スタンスは維持しつつ、市場をアウトパフォームした運輸セクターの企業の組入れを行い、同セクターをオーバーウエイトとしました。発行体のデフォルト率が低水準で、バンクローン市場を支えるファンダメンタルズの良好な状態が続くなか、リスクに見合ったリターンを前提とし新規案件への投資も選好しました。



※ウエスタン・アセット・バンクローン（オフショア）ファンドー J P Yヘッジド・クラスの組み入れは2014年8月18日から2015年8月6日です。

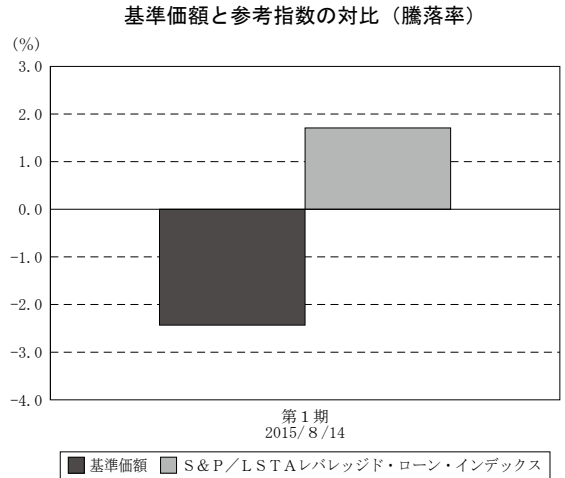
○日本短期公社債マザーファンドの運用状況

流動性や信用力を勘案し、残存1年以内の短期公社債で運用を行い、安定した収益の確保を目指しました。

### 当ファンドのベンチマークとの差異

（2014年8月15日～2015年8月14日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。グラフは、基準価額と参考指数の対比です。



### 分配金

（2014年8月15日～2015年8月14日）

運用による収益は信託終了時まで投資信託財産中に留保し、信託期間中の分配は行いませんでした。

## 償還にあたって

当ファンドは、2015年8月14日に満期償還させていただきました。当ファンドをご愛顧いただき誠にありがとうございました。

## ○1万口当たりの費用明細

（2014年8月15日～2015年8月14日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 62 (38) (21) ( 3)	% 0.626 (0.377) (0.217) (0.032)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× $\frac{\text{経過日数}}{365}$ 委託した資金の運用、基準価額の算出などの対価 購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、分配金・償還金・換金代金支払などの事務手続きなどの対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価
(b) そ の 他 費 用 (監 査 費 用)	0 ( 0)	0.003 (0.003)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用
合 計	62	0.629	
期中の平均基準価額は、9,907円です。			

※期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
 ※各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 ※その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。  
 ※各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。  
 ※各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

（2014年8月15日～2015年8月14日）

### 投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外 国 (邦貨建)	ウエスタン・アセット・バンクローン (オフショア) ファンドーJPYヘッジド・クラス	口	千円	口	千円
		954,866,145	988,000	954,866,145	970,901

※金額は受渡代金、単位未満切捨て。

### 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
日 本 短 期 公 社 債 マ ザ ー フ ェ ン ド	千口 994	千円 1,000	千口 994	千円 1,000



## ○利害関係人との取引状況等

（2014年8月15日～2015年8月14日）

### 利害関係人との取引状況

<バンクローン・ファンド・ネオ（円ヘッジ型）2014-08>

該当事項はございません。

<日本短期公社債マザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
公 社 債	百万円 249	百万円 -	% -	百万円 29	百万円 19	% 65.5

平均保有割合1.4%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、みずほ証券です。

## ○組入資産の明細

（2015年8月14日現在）

2015年8月14日現在、有価証券等の組入れはございません。

## ○投資信託財産の構成

（2015年8月14日現在）

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 868,150	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	868,150	100.0

○資産、負債、元本及び償還価額の状況（2015年8月14日現在）

項 目	償 還 時
(A) 資 産	868,150,842円
コール・ローン等	868,147,050
未 収 利 息	3,792
(B) 負 債	109,075,220
未 払 解 約 金	106,351,300
未 払 信 託 報 酬	2,723,920
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	759,075,622
元 本	778,001,092
償 還 差 損 金	△ 18,925,470
(D) 受 益 権 総 口 数	778,001,092口
1 万 口 当 たり 償 還 価 額 (C/D)	9,756円74銭

○損益の状況（2014年8月15日～2015年8月14日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	21,139円
受 取 利 息	21,139
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△17,098,215
売 買 益	63,623
売 買 損	△17,161,838
(C) 信 託 報 酬 等	△ 6,100,398
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△23,177,474
(E) 解 約 差 損 益 金	4,252,004
償 還 差 損 金 (D+E)	△18,925,470

- ・信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。
- ・解約差損益金とは、解約元本額と解約代金との差額で解約元本額を上（下）回って支払うため損（益）金として処理することになっております。

注記事項

- ・信託財産に係る設定年月日、設定元本額、期首元本額及び元本残存率  
 設定年月日 2014年8月15日  
 設定元本額 1,007,514,855円  
 期首元本額 1,007,514,855円  
 元本残存率 77.2%
- ・分配金の計算過程  
 当ファンドは信託約款第33条に基づき、分配を行っておりません。

○投資信託財産運用総括表

信 託 期 間	投資信託契約締結日	2014年8月15日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2015年8月14日		資 産 総 額	868,150,842円
区 分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差 引 増 減 又は追加信託	負 債 総 額	109,075,220円
				純 資 産 総 額	759,075,622円
受益権口数	1,007,514,855口	778,001,092口	△229,513,763口	受 益 権 口 数	778,001,092口
元 本 額	1,007,514,855円	778,001,092円	△229,513,763円	1 万 口 当 たり 償 還 金	9,756円74銭
信託期間中1万口当たり総収益金および年平均収益率				△243.26円	△2.4%

## ○償還金の明細

1 万口当たり償還金	9,756円74銭
------------	-----------

償還金のお支払いは、償還日から起算して5営業日までに開始いたします。

### <お知らせ>

#### 投資信託約款変更について

「投資信託及び投資法人に関する法律」等の改正に伴い、運用報告書（全体版）の電磁的方法等による交付に関する記載追加を行いました。

（効力を生ずる日 2014年12月1日）